

・推計結果

・観光客数及び観光消費額の推計

1. 観光客数の推計

1 - 1 観光客の定義と推計の方法

1) 観光客の定義

基本的には、台東区外から区内への来訪者を対象とし、観光目的の来訪者を狭義の観光客、それに買い物目的の来訪者を含めたものを広義の観光客とする。

具体的には次のように設定する。

区内の博物館、演芸場など主要観光施設(35施設)への来訪者は全て観光客とする。

上野地区・浅草及び周辺地区で開催される主要なイベントへの来訪者は全て観光客とする。

区内の主要宿泊施設(64施設)における観光目的の宿泊客は全て観光客とする。

上野地区・浅草地区へ来訪する買い物客は広義の観光客とする。

観光目的の来訪者を狭義の観光客、観光目的ならびに買い物目的の来訪者を広義の観光客とする。

2) 推計の方法

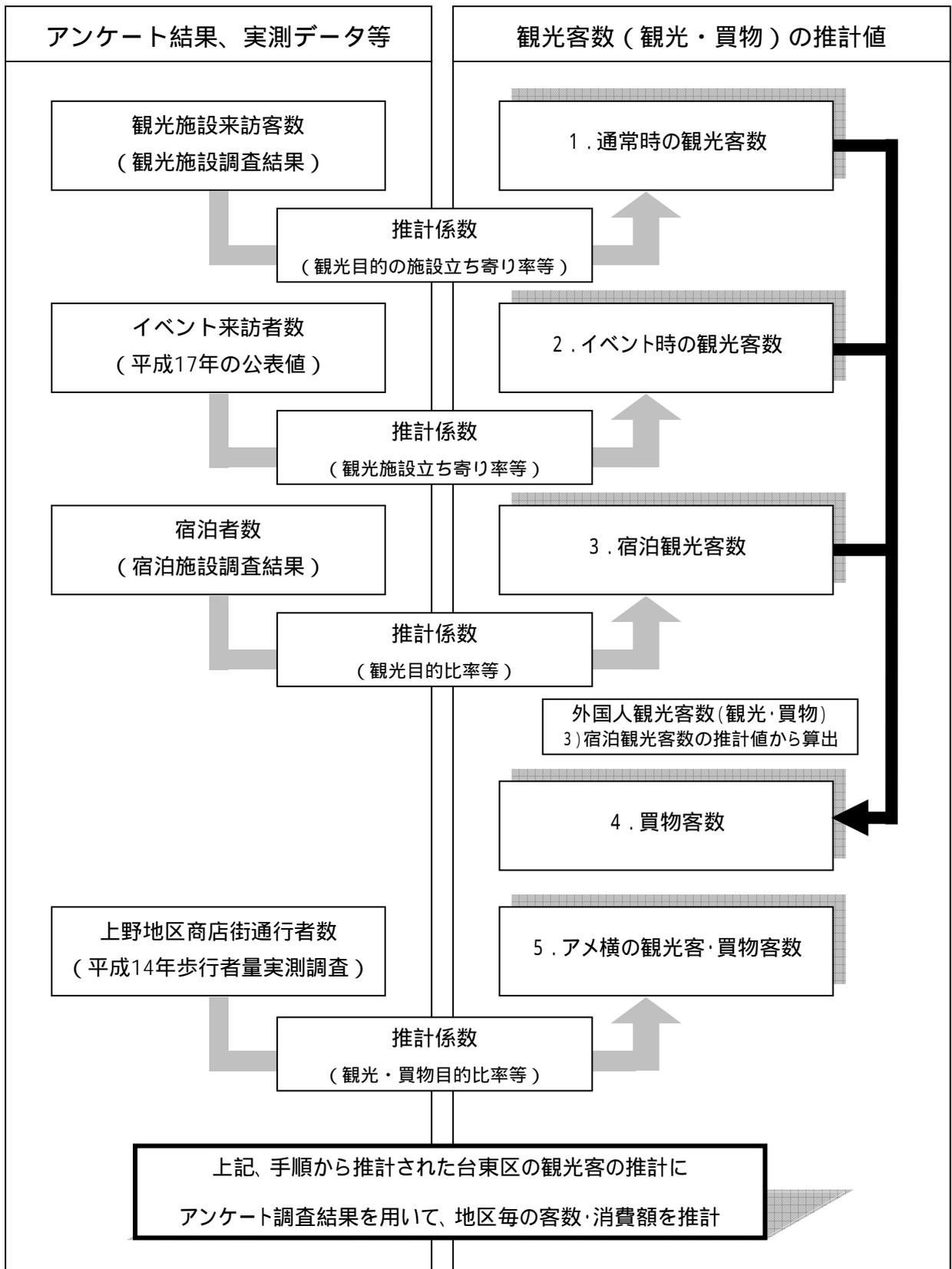
推計作業は、基本的には、 で把握したアンケート調査結果を基礎とする。但し、同アンケート調査の実施期間及び実施地点からみて、年間を通じたイベント来訪者が十分とらえられていないこと、また観光目的に比して買い物目的の来訪者がやや少なめにとらえられていると考えられることから、過去に実施された来訪者調査結果を補完的に活用して推計する。

具体的には、上記1)の については、 で把握したアンケート調査結果を基礎に推計する。

については、平成17年に開催された主要なイベントにおける来訪者数の公表データを用いて推計する。

については、平成14年に実施されたアメ横を中心とする上野地区商店街における来街歩行者通行量の実測調査結果を活用して推計する。

図4-1 観光客推計の手順



1 - 2 観光客数の推計

観光客推計の手順(図4-1)に示した通り、以下に、5つの推計を行う。その結果、得られる数値を台東区における広義の総観光客数と設定する(なお、同手順内に示す丸囲み数字は、以下に掲載する算出手順に掲載する見出し番号と一致する)。

1) 通常時の観光客数の推計

区内の観光施設の入館者数を基に、区外からの来訪者による同観光施設への立ち寄り率を用いて、通常時の観光客数を推計する。

区内観光施設(35施設)の入館者数

観光施設調査で回収した27施設の年間(平成17年)の入館者数実績(「かわとはきものギャラリー(当館より年間入館者数報告)」128人/年を含む)が**11,165,431人/年**である。

- 区内観光施設35施設のうち、アンケート未回収の8施設の年間入館者数の想定を、前回推計結果(平成16年度台東区観光客マーケティング調査より)を用いて、次のように行う。

「世界の銀器館」「袋物参考館」11,351人/年、「木馬館(木馬亭)」56,753人/年

「皮革産業資料館」326人/年、「ねぎし三平堂」4,104人/年

「鈴木演芸場」140,479人/年、「旧岩崎邸庭園」312,791人/年

「浅草花やしき」517,586人/年

合計で、今回、未回収施設の前回調査の年間入館者数は**1,043,390人/年**となる。

前回調査および本調査で把握できた施設の、年間入館者数実績の伸び率を算出すると、次式より、114%となる。

$$11,165,431人/年(平成17年) \div 10,681,000人/年(平成15年) = 114\%$$

上記、合計(平成15年調査時)に伸び率を加算すると、1,043,390人/年となる。

- よって、35施設全体の入館者数を算出すると、次式より、**約1,221万人/年**と推計される。

$$11,165,431人/年 + 1,043,390人/年 = 12,208,821人/年$$

区内観光施設の入館者数 約1,221万人/年

区外からの来訪者による区内観光施設(35施設)の入館者数

観光客アンケート調査時の回収より、台東区外からの来訪者比率は98.23%であることから、上記で推計した入館者数のうち、区外からの来訪者数は、次式より**約1,199万人/年**と推計される。

$$12,208,821人/年 \times 98.23\% = 1,199.3万人/年$$

区外からの来訪者による区内観光施設の入館者数 約1,199万人/年

区外来訪者による区内観光施設の入館者実数

上記で推計した入館者数には、重複カウント分が含まれていることから、これを除く必要がある。観光客アンケートにおいて、区外来訪者が区内観光施設へ立ち寄る施設数の平均は、1.96箇所/人であることから、次式より、区外来訪者の実数は約611.9万人/年と推計される。

$$1,199.3\text{万人/年} \div 1.96\text{箇所} = 611.9\text{万人/年}$$

区外来訪者による区内観光施設の入館者実数 約611.9万人/年

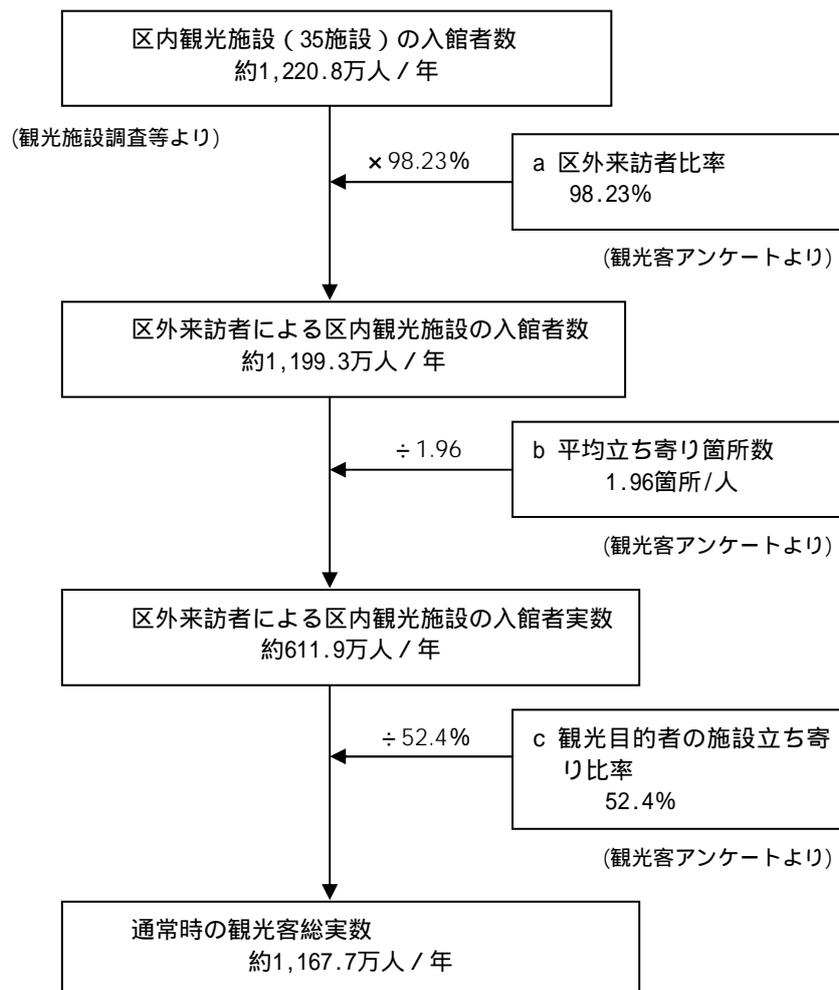
通常時の観光客総実数

観光客のアンケートにおいて、区内観光施設への立ち寄りのうち観光目的者は全体の52.4%である。上記をこの比率で除することにより、区内観光施設へ立ち寄らない人も含めた観光客の実数が得られる。結果は、次式より1167.7万人/年と推計される。

$$611.9\text{万人/年} \div 52.4\% = 1167.7\text{万人/年}$$

通常時の観光客総実数 約1,167万人/年

通常時の観光客数の推計フロー



2) イベント時の観光客数の推計

上野地区、浅草及び周辺地区で開催される主要なイベントの来訪客の実績値を基に、前項1)で推計した観光客数と重複する分を除いて、通常時の観光客数への上乗せ分として推計する。

イベントへの来訪客数

表4 - 1 平成17年の主なイベント来訪者数

上野地区		浅草及び周辺地区	
イベント名	来訪者数(人)	イベント名	来訪者数(人)
うへの桜まつり	1,755,000	初詣三ヶ日(浅草寺)	2,000,000
うへの秋の観光祭	1,026	江戸流し雛	8,500
入谷朝顔まつり	400,000	隅田川きもの園遊会	1,414
		桜橋花祭り	81,500
		こんこん靴市	55,000
		浅草流鏑馬	23,000
		下町七夕まつり	398,000
		隅田川花火大会	955,500
		浅草サンバカーニバル	500,000
		東京時代まつり	480,000
		靴のめぐみ祭り市	50,000
		はきだおれ市	50,000
計	2,156,026	計	4,602,914

なお、前回調査では推計値に含まれているが、今回「うへの夏まつりパレード」、「一葉祭」は中止のため含まれていない。また、「谷中まつり(90,713人)」、「上野地区」、「三社祭(1,000,000人)」、「浅草菊花展1,650,000人」、「浅草寺ほおづき市(600,000人)」、「西の市(650,000人)」、「隅田公園桜まつり(1,000,000人)」、「いずれも浅草および周辺地区」は前回調査時の公表データを用いて算出を行う。

イベントへの区外来訪客数

観光客アンケートの調査地点別集計(谷中まつりおよび浅草羽子板市開催時の回答者の集計)の結果から、区外来訪者の割合を算出し、次式により、イベントへの区外来訪客数を推計する。

結果は、上野地区で2,234,026人/年、浅草及び周辺地区で9,994,605人/年と推測される。

上野地区 $2,234,026人/年 \times 98.23\% = 219.4万人/年$

浅草及び周辺地区 $9,994,605人/年 \times 98.23\% = 983.2万人/年$

イベントへの区外来訪客数 上野地区 約219万人/年
浅草及び周辺地区 約983万人/年

イベントへの区外来訪客数のうち、区内観光施設へ立ち寄らない人数 = イベント時の観光客数（上乘せ分）

- ・ 観光客アンケートの調査地点別集計結果から、各イベントへの区外来訪者のうち、区内観光施設へ立ち寄る人の比率を算出すると、上野地区が64.86%、浅草地区が30.65%であった。
- ・ この結果を用いて、前項1)で推計した観光客数と重複する分を除くため、イベントへの区外来訪客数のうち、区内観光施設へ立ち寄らない人数を次式により推計する。結果は、上野地区で約77万人/年、浅草及び周辺地区で約681万人/年、併せて約758万人/年と推計される。

この値が、イベント時の観光客数として、前項1)の結果に上乘せする分である。

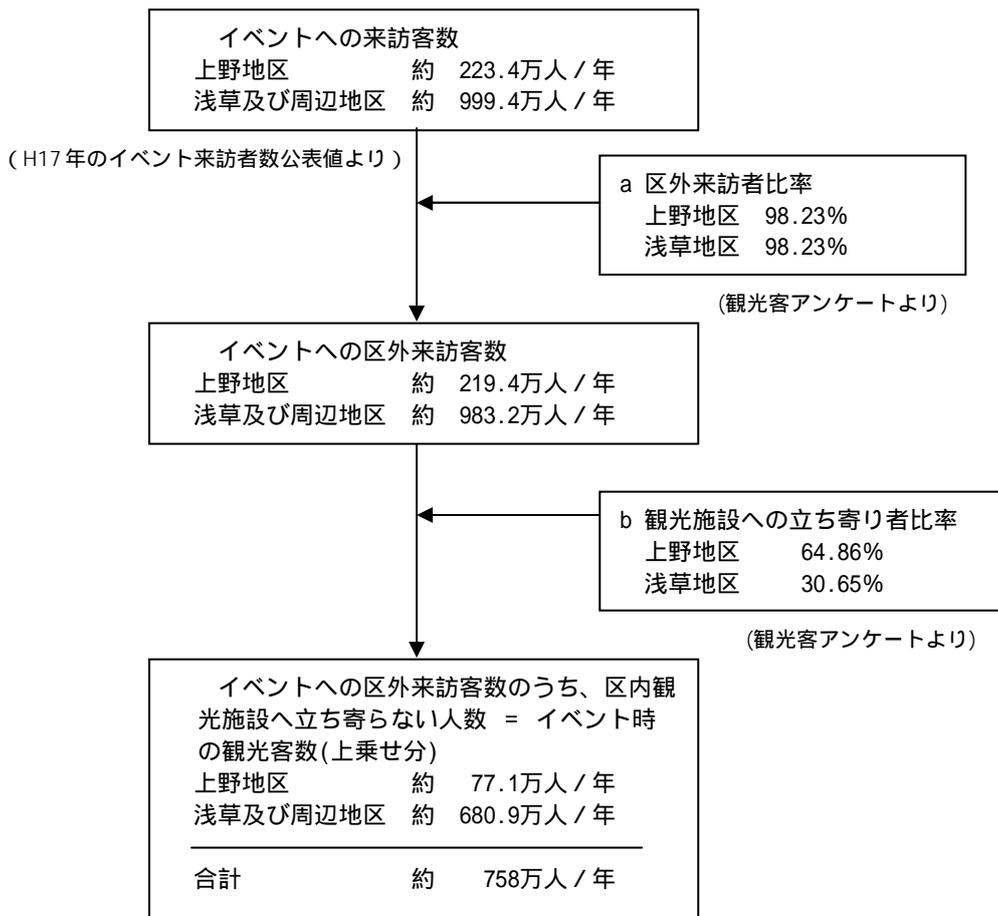
上野地区 $219.4 \text{万人/年} \times (100.0\% - 64.86\%) = 77.1 \text{万人/年}$

浅草及び周辺地区 $983.2 \text{万人/年} \times (100.0\% - 30.65\%) = 680.9 \text{万人/年}$

イベント時の観光客数

上野地区	約77万人/年
浅草及び周辺地区	約681万人/年

イベント時の観光客数の推計フロー



3) 宿泊観光客数の推計

区内の主要な宿泊施設(64施設)における観光目的の宿泊数について、宿泊施設の稼働率や旅行目的比率等を用い、前項1)で推計した観光客数と重複する分を除いて、宿泊観光客数を推計する。また、の推計については、宿泊施設調査(33施設)の結果を用いて算出している。

区内主要宿泊施設(64施設)の業態別客室数

区内主要施設リストより、64施設の室数を業態別に集計する。結果は、ホテルが749室、ビジネスホテルが2,671室、旅館が354室、合計で3,774室となる。

宿泊延べ人数

- ・ 宿泊施設調査結果より、業態別に、一室あたりの平均収容人員(ホテル2.28人、ビジネスホテル1.51人、旅館2.43人)と収容人員稼働率(ホテル25.6%、ビジネスホテル69.0%、旅館81.3%)を算出する。これを上記 に乗じ、さらに365日分に拡大することで、年間の宿泊延べ人数が算出される。結果は、ホテル、ビジネスホテル、旅館を合わせて1,430,599人泊/年と推計される。

区外からの宿泊実人数

- ・ 宿泊客アンケート調査結果から、宿泊者のうち区外居住者の割合は99.29%で、平均宿泊数は3.28泊/人と算出された。これらを上記 の結果に乗・除することによって、区外からの宿泊実人数を算出する。結果は、433,062人/年と推計される。

宿泊観光実人数

- ・ 区外宿泊者の観光目的比率は33.93%である。これを上記 の結果に乗じることによって、宿泊観光実人数は146,938人/年と推計される。

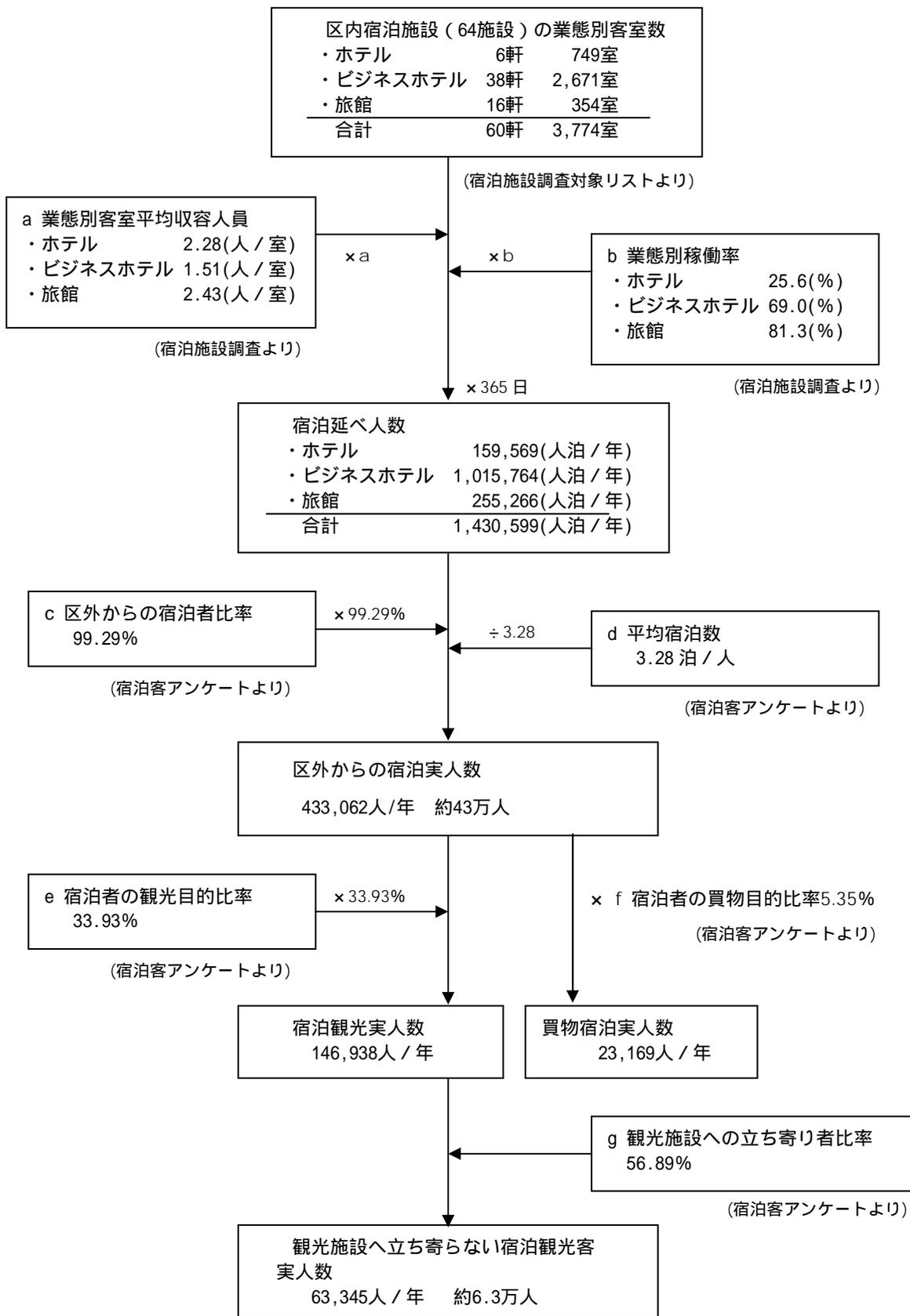
観光施設へ立ち寄らない宿泊観光客実人数

- ・ 宿泊客アンケート調査結果から、宿泊者のうち観光施設へ立ち寄る人の割合は56.89%である。この結果を用いて、前項1)で推計した観光客数と重複する分を除くため、観光施設に立ち寄らない観光宿泊実人数は、次式により、63,345万人/年と推計される。

$$146,938人/年 \times (100.0\% - 56.89\%) = 63,345人/年$$

宿泊観光客実人数 約6.3万人/年

宿泊観光客数の推計フロー



4) 外国人観光客数の推計

前項、3)で推計した観光客数の内訳として、外国人観光客数を推計する。

区内宿泊客数の推計値

- ・ 前項3)で推計した宿泊者の実人数は約43.3万人/年であり、この値を基にする。

外国人宿泊客数

- ・ 宿泊施設調査結果から、区内宿泊施設(22施設)における外国人宿泊客の割合は10.7%である。この比率を用いて次式により、外国人宿泊客数は約4.63万人/年と推計される。

$$43.3\text{万人/年} \times 10.7\% = 4.63\text{万人/年}$$

外国人来訪者総数

- ・ 観光客アンケート結果より、外国人回答者のうち、日帰り客と区内宿泊客の割合は下表(A)のようになっている(但し、宿泊先を明確に答えた人のみを抽出した)。このうち宿泊者数について平均宿泊数3.28泊/人で除し、実人数に補正して比較すると下表(B)のようになる。

	(A) 回答者数		(B) 実人数補正	
外国人の日帰り者数	206人	81.7%	206人	95.0%
外国人の区内宿泊者数	46人	18.3%	14人	5.0%
合計	252人	100.0%	220人	100.0%

- ・ この区内宿泊者比率5.0%を用いて、次式により、外国人来訪者総数は約92.6万人/年と推計される。

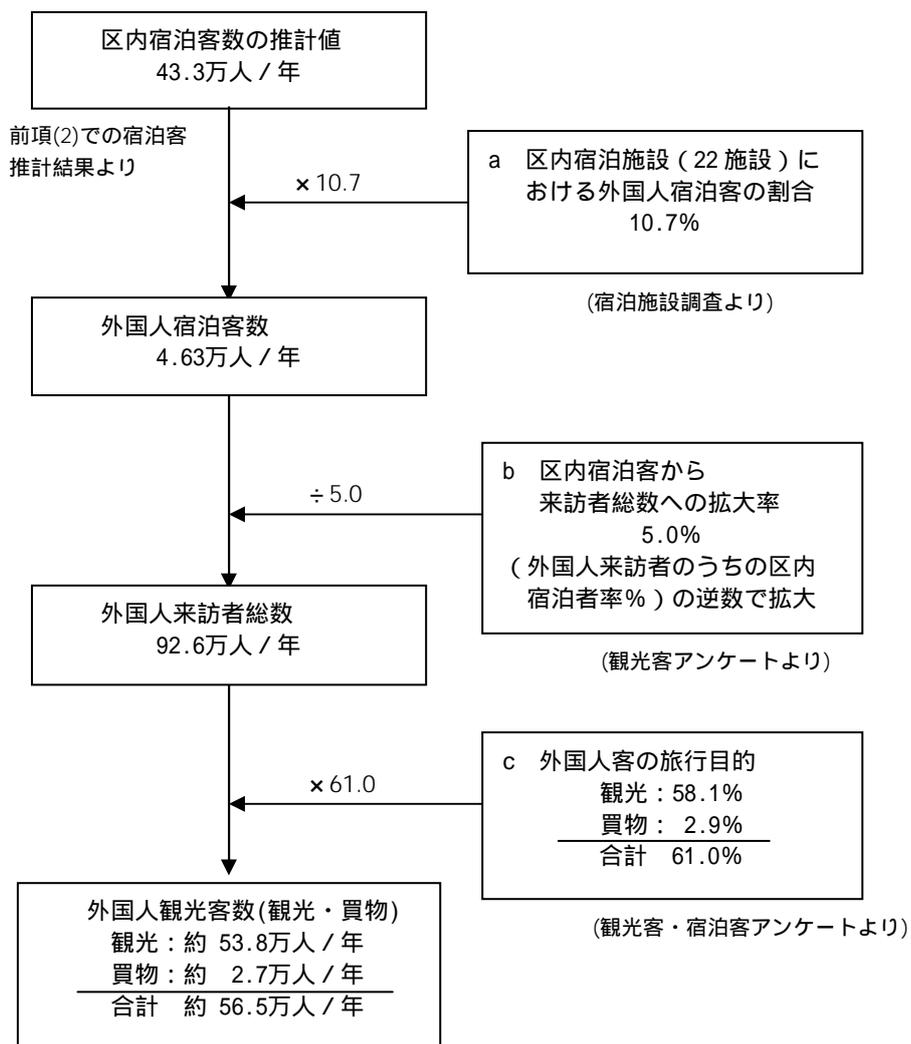
$$4.63\text{万人/年} \div 5.0\% = 92.6\text{万人/年}$$

外国人観光客数(観光・買い物)

- ・ 観光客・宿泊客アンケート結果より、外国人の旅行目的のうち観光(58.1%)と買い物(2.9%)を合わせた目的比率が61.0%となる。この結果を用いて次式により、外国人観光客数(買い物を含む広義の概念)は約56.5万人/年と推計される。

$$92.6\text{万人/年} \times 61.0\% = 56.5\text{万人/年}$$

外国人観光客数の推計フロー



5) 買い物客数の推計(アメ横を含まない)

前記、1)、2)、3)で推計した観光客数を基に、日帰り客・宿泊客総数の観光目的比率、買い物目的比率を用い、(アメ横外の)買い物客数を推計する。

観光客数

- 前記1)、2)、3)の推計結果を合計した観光客数は約1,932.0万人/年となる。
 $1,167.7\text{万人/年(通常時の観光客総実数)} + 758.0\text{万人/年(イベント時の観光客数の推計)} + 6.3\text{万人/年(宿泊観光客数の推計)} = 1,932.0\text{万人/年}$

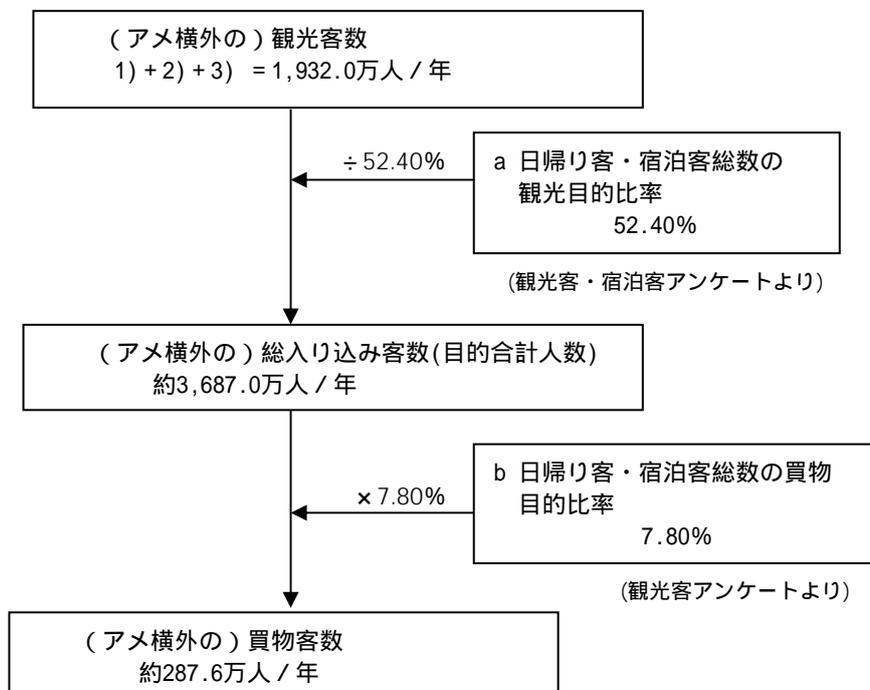
総入り込み客数

- 観光客及び宿泊客アンケート調査結果から、日帰り客・宿泊客総数の観光目的比率は52.40%である。上記の結果をこの比率で除することにより、総入り込み客数(全目的の人数)が算出される。結果は3,687.0万人/年と推計される。

買い物客数

- 観光客及び宿泊客アンケート調査結果から、日帰り客・宿泊客総数の買い物目的比率は7.80%である。上記の結果にこの比率を乗じることにより、買い物客数が算出される。結果は、287.6万人/年と推計される。

(アメ横外の) 買い物客数の推計フロー



6) アメ横の観光客数・買い物数の推計

上野地区商店街における歩行者通行量の実測調査結果を基に、アメ横立ち寄り率、観光・買い物目的比率等を用い、また前項1)で推計した観光客数と重複する分を除いて、アメ横の観光客数、買い物客数を推計する。

上野地区商店街における歩行者通行量

- 上野地区商店街内10地点における歩行者通行量は、下表に見られるとおり、平日の合計値が220,640人 / 13時間、休日の合計値が274,986人 / 13時間となっている。これは平成14年における午前9時から午後10時までの13時間の実測調査結果であり、店舗の営業時間を考慮すると、買い物客はほぼ100%とらえられているものと考えられ、一日分の通行量とみなすことができる。

上野地区商店街内10地点における歩行者通行量（人 / 13時間）

観測地点	観測地点の歩行者数(両方向)		
	平日	休日	合計
1 丸井上野店横	21,196	21,366	42,562
2 上野公園坂中程上野パーキングセンター前	6,024	14,352	20,376
3 アメヤ横丁	26,450	37,646	64,096
4 上野京成ビルヨドバシカメラ前	26,358	25,208	51,566
5 アメ横センタービル横アメ横側	19,670	27,968	47,638
6 アメ横センタービル横上中側	22,142	34,146	56,288
7 白鳥舎ビル前	21,516	30,400	51,916
8 アメ横マルセル前	24,954	32,080	57,034
9 地下鉄出口ハトヤ前	21,066	24,804	45,870
10 靴のハギモト前	31,264	27,016	58,280
合計	220,640	274,986	495,626

資料：「上野地区商店街診断報告書」（平成15年3月／台東区）

アメ横の年間来訪者実数(全目的)

- 上記の通行量は、観測ポイントにおける往復の歩行者数であり、重複分が含まれている。したがって来訪者の実数は実測値の1 / 2程度とすることが妥当と考えられる。上記の実測調査と同時に実施された歩行者アンケート調査結果において、上野地区商店街への来訪者のうち、アメ横へ立ち寄る人の割合が59.3%となっている。以上の数値データを基に、アメ横来訪者実数は、次式により、平日、休日別に算出した結果、合計約2,581.2万人 / 年と推計される。

$$\text{平日 } 220,640 \text{人 / 日} \times 1 / 2 \times 245 \text{日} \times 59.3\% = 1,602.8 \text{万人 / 年}$$

$$\text{休日 } 274,986 \text{人 / 日} \times 1 / 2 \times 120 \text{日} \times 59.3\% = 978.4 \text{万人 / 年}$$

アメ横の年間観光客・買い物客実数（全数）

上野地区商店街の歩行者アンケート調査結果において、来街目的のうち、観光目的の人が32.1%、買い物目的の人が64.5%となっている。これを上記の結果に乗じることによって、アメ横の年間観光客数は約536.9万人/年、年間買い物客数は約1,664.9万人/年と推計される。

$$\text{観光客数} \quad 2,581.2\text{万人/日} \times 32.1\% = 828.6\text{万人/年}$$

$$\text{買い物客数} \quad 2,581.2\text{万人/日} \times 64.5\% = 1,664.9\text{万人/年}$$

上野地区商店街への来街目的（平成14年通行者アンケート調査より）

上野地区商店街へ来た目的	回答数	有効回答数	構成比
買物	410	} 買物目的と想定 546	64.5%
飲食	136		
レジャー	51	} 観光目的と想定 176	20.8%
観光のため	25		
文化施設利用のため	23		
上野に来たついで	37		
特に目的はない(なんとなく)	40		
通勤・通学の途中	30		
仕事のため	55		
その他	40		
無回答	3		
合計	850	847	100.0%

(複数回答)

アメ横の年間観光客・買い物客実数（観光施設立ち寄り者を除く）

上記には、前項1)で推計した観光施設立ち寄り者を含むことから、重複を避けるためこれを除外する必要がある。観光客・宿泊客アンケート調査結果から、アメ横へ立ち寄る人のうち観光施設へ立ち寄る人の割合が52.60%であることから、次式により、観光施設立ち寄り者を除くアメ横の年間観光客実数は約392.7万人/年、買い物客実数は約789.2万人/年と推計される。

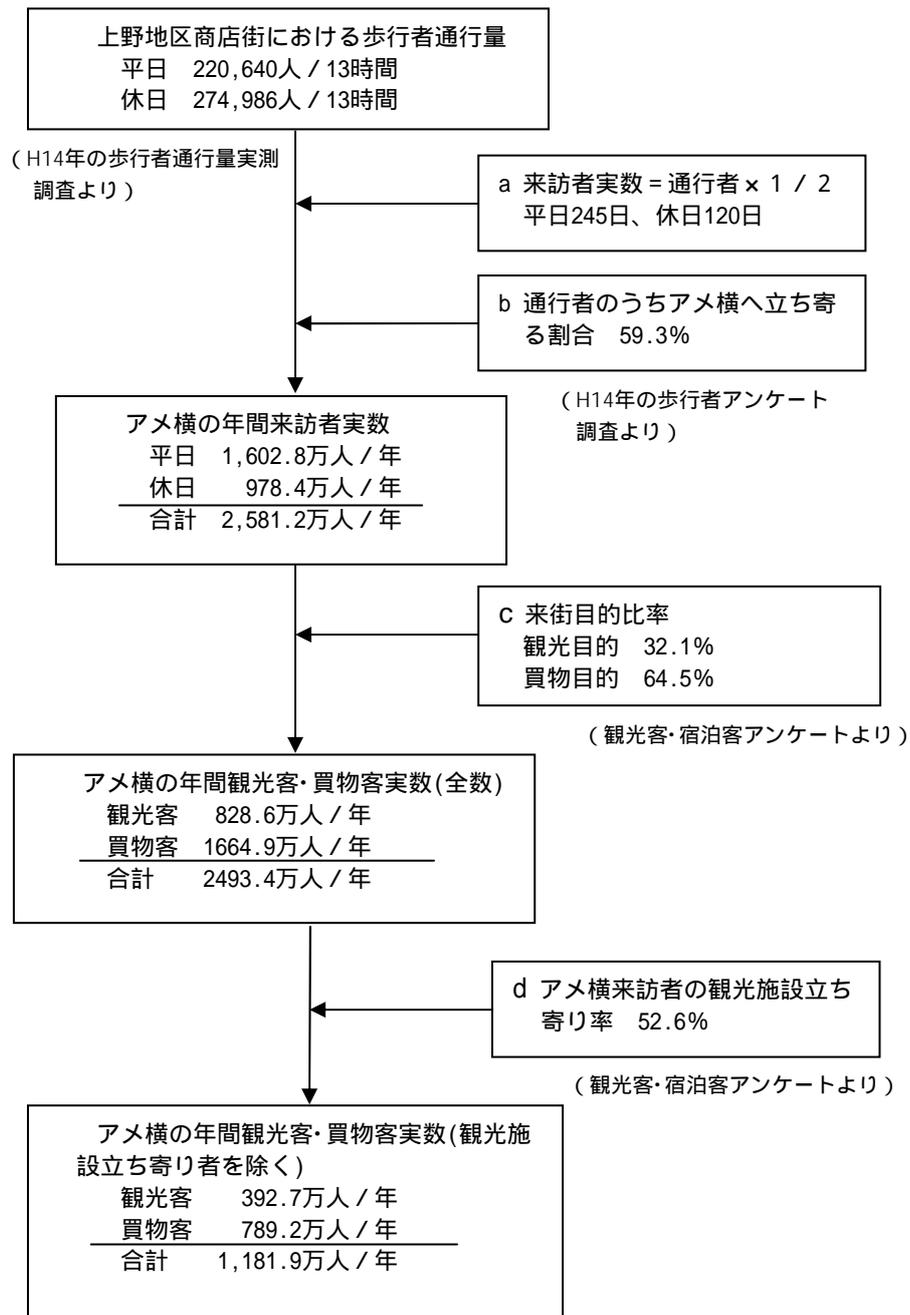
$$\text{観光客数} \quad 828.6\text{万人/年} \times (100\% - 52.60\%) = \text{約}392.7\text{万人/年}$$

$$\text{買い物客数} \quad 1,664.9\text{万人/年} \times (100\% - 52.60\%) = \text{約}789.2\text{万人/年}$$

アメ横の年間観光客・買い物客実数(観光施設立ち寄り者を除く)

約1181.9万人/年

アメ横の観光客・買い物客数の推計フロー



< 総観光客数の推計結果 >

以上、前項の推計結果を合計して、観光客総数は約2,324.7万人/年、買い物客総数は約1,076.8万人/年、合計約3,401.5万人/年と推計される。

推計結果	観光客数	買い物客数
1) 通常時の観光客総実数	約1,167.7万人/年	
2) イベント時の観光客数	約758.0万人/年	
3) 観光施設へ立ち寄らない 宿泊観光客実数	約6.3万人/年	
4) 買い物客数		約287.6万人/年
5) アメ横の年間観光客・ 買い物客実数	約392.7万人/年	約789.2万人/年
合計	約2,324.7万人/年	約1,076.8万人/年

2. 観光消費額の推計

2-1 推計の方法

前節1-2で推計した観光客数を基に、で分析したアンケート調査結果から得られる観光客一人当たりの消費額を用いて、台東区における観光消費額を推計する。

消費額は台東区内で消費するものに限定し、費目は、宿泊費、食事代、買い物代、その他の消費(観光施設入館料等)とする。

観光客数

前節1-2での推計結果から、日帰り・宿泊別、観光目的・買い物目的別に、下表のように整理される。

	観光客数	買い物客数	合計
日帰り客	約2,310.0万人/年	約1,074.5万人/年	約3,384.5万人/年
宿泊客	約14.7万人/年	約2.3万人/年	約17.0万人/年
合計	約2,324.7万人/年	約1,076.8万人/年	約3,401.5万人/年

費目別一人当たり消費単価

- 観光客一人当たりの消費額単価の設定に当たっては、の分析で明らかのように、日帰り客と宿泊客の間に消費行動に大きな違いが見られることから、日帰り客、宿泊客に分けて、費目ごとに設定する。
- 結果は、下表に見られる通りであり、基本的にはアンケート調査で得られた費目別の平均値を採用する。

一人当たり消費額の設定費(目的別、観光客種別)

観光目的		回答者数	回答総額	1人あたり単価
日帰り	食事代	291	677430	¥ 2,328
	買い物代	243	811500	¥ 3,340
	その他消費	75	96150	¥ 1,282
	合計			¥ 6,949
宿泊客	宿泊代	152	1381125	¥ 9,086
	食事代	209	1094845	¥ 5,238
	買い物代	208	1475200	¥ 7,092
	その他消費	38	75800	¥ 1,995
	合計			¥ 23,412

観光+買い物目的		回答者数	回答総額	1人あたり単価
日帰り	食事代	350	841430	¥ 2,404
	買い物代	314	1421200	¥ 4,526
	その他消費	91	116650	¥ 1,282
	合計			¥ 8,212
宿泊客	宿泊代	161	1453915	¥ 9,031
	食事代	224	1163445	¥ 5,194
	買い物代	223	1644200	¥ 7,373
	その他消費	42	78100	¥ 1,860
	合計			¥ 23,457

1人あたり単価は、小数点以下を四捨五入して算出しているため、合計額と合わないことがある。

2 - 2 観光消費額の推計結果

前項2 - 1の方法で推計した結果は下表に見られる通りである。すなわち、狭義の観光消費額は約1,639.7億円(内訳: 宿泊費約13.4億円、食事代約545.5億円、買い物代約781.9億円、その他消費額約299.1億円)であり、買い物を含む広義の観光消費額は約2,819.3億円(内訳: 宿泊費約15.4億円、食事代約822.5億円、買い物代約1,544.4億円、その他の消費額約437.0億円)と推計される。

観光目的		回答者数	回答総額	1人あたり単価	年間客数	消費額
日帰り	食事代	291	677430	¥ 2,328	2,310.0	¥ 53,775,371,134
	買い物代	243	811500	¥ 3,340		¥ 77,142,592,593
	その他消費	75	96150	¥ 1,282		¥ 29,614,200,000
	合計			¥ 6,949		¥ 160,532,163,727
宿泊客	宿泊代	152	1381125	¥ 9,086	14.7	¥ 1,335,693,257
	食事代	209	1094845	¥ 5,238		¥ 770,058,445
	買い物代	208	1475200	¥ 7,092		¥ 1,042,569,231
	その他消費	38	75800	¥ 1,995		¥ 293,226,316
	合計			¥ 23,412		¥ 3,441,547,248
	合計				2,324.7	¥ 163,973,710,975

観光+買い物目的		回答者数	回答総額	1人あたり単価	年間客数	消費額
日帰り	食事代	350	841430	¥ 2,404	3,384.5	¥ 81,366,281,000
	買い物代	314	1421200	¥ 4,526		¥ 153,186,350,318
	その他消費	91	116650	¥ 1,282		¥ 43,384,826,923
	合計			¥ 8,212		¥ 277,937,458,242
宿泊客	宿泊代	161	1453915	¥ 9,031	17.0	¥ 1,535,189,752
	食事代	224	1163445	¥ 5,194		¥ 882,971,652
	買い物代	223	1644200	¥ 7,373		¥ 1,253,426,009
	その他消費	42	78100	¥ 1,860		¥ 316,119,048
	合計			¥ 23,457		¥ 3,987,706,460
合計					3,401.5	¥ 281,925,164,701

1人あたり単価は、小数点以下を四捨五入して算出しているため、合計額と合わないことがある。

2 - 3 観光客数・観光消費額の推計結果の考察

本調査結果より、推計した観光客数及び観光消費額は以下の通りである。

年観光客数

	観光客数	うち日帰り客数	うち宿泊客数
狭義の観光客数	約2,324.7万人/年	約2,310.0万人/年	約14.7万人/年
広義の観光客数	約3,401.5万人/年	約3,384.5万人/年	約17.0万人/年

前節2 - 1、2 - 2で推計した観光客数及び観光消費額の結果について、「平成16年度 台東区観光客マーケティング調査報告書」における推計値と比較したものが下表である。

		今回推計値	前回調査結果	差し引き
年間観光客数	買い物客を除く (観光客のみ) 狭義の観光客数	約2325万人	約2286万人	約39万人
	買い物客を含む (観光+買い物) 広義の観光客数	約3402万人	約3,306万人	約96万人
年間観光消費額	買い物客を除く (観光客のみ) 狭義の観光消費額	約1,640億円	約1,293億円	約347億円
	買い物客を含む (観光+買い物) 広義の観光消費額	約2,819億円	約2,000億円	約819億円

- ・ 比較表に見られるように、今回の推計結果は平成16年度に比して、狭義の観光客数では約40万人、広義の観光客数は約100万人増加している。
- ・ また、観光客数の増加に比例して観光消費額も増加している。

台東区内観光客数および消費額の推計（調査地点）

		今回推計値	浅草地区	上野地区	谷中地区	浅草橋
年間観光客数	買い物客を除く (観光客のみ) 狭義の観光客数	約2,325万人	約1,323万人	約814万人	約154万人	約35万人
			57%	35%	7%	2%
	買い物客を含む (観光 + 買い物) 広義の観光客数	約3,402万人	約1,967万人	約1,169万人	約216万人	約49万人
			58%	34%	6%	1%
年間観光消費額	買い物客を除く (観光客のみ) 狭義の観光消費額	約1,640億円	約933億円	約574億円	約108億円	約24億円
			57%	35%	7%	2%
	買い物客を含む (観光 + 買い物) 広義の観光消費額	約2,819億円	約1,631億円	約970億円	約179億円	約40億円
			58%	34%	6%	1%

本推計は、観光客及び宿泊客アンケート調査結果の訪問地の回答(重複を除く)を用いて算出を行った。

推計値の内訳は、小数点以下を四捨五入して算出しているため、合計額と合わないことがある。また、割合(%)についても同様に、合計が100%にならないことがある。

台東区観光客マーケット調査 報告書

平成 19 年 3 月発行

編集・発行 台東区産業部観光課

〒110-8615 東京都台東区東上野 4 丁目 5 番 6 号

TEL 03 (5246) 1151

平成 18 年度 登録 第 37-1 号

調査委託機関 株式会社 サーベイリサーチセンター